

〈東海支部〉
ボランティア団体
「愛知子ども守り隊」活動紹介

子どもたちの安全を守ろうと、全国で大学生によるボランティア団体「子ども守り隊（守るんジャー）」が結成され、「Safe Japan for Children（安全な日本を子どもたちのために）」を合い言葉に活動を行っている。中部地方においても、愛知県の中京大学の学生により結成され、子どもたちを見守る活動が行われている。今回は、その活動内容と、学生たちのボランティア活動を支える大学の取組について紹介する。

はじまり

守るんジャー発祥の地は高知県で、高知大学学生により、「学校までの道のりは元気に胸を張って歩いて欲しい」という想いから、学校、地域、警察等と連携した通学路巡回が始まった。この想いが、全国各地に拡がり、現在、六県において、子ども守り隊の活動が繰り広げられ、より効果的な活動ができるよう情報交換等の連携を取り合っている。

中部地方では、愛知県の中京大学が想いを受け取り、「愛

知子ども守り隊」が平成一八年三月に結成された。結成時のメンバーのほとんどが、教員を志しており、小学生が犯罪に巻き込まれる事件を聞き、居たたまれない気持ちで日々を過ごしていた矢先、同じ大学生が既に活動していることに触発され、結成に至った。当初二〇名程度だったメンバーも、現在は六〇名にまで増え、名古屋工業大学や愛知教育大学等の活動に興味を持った他大学学生も積極的に参加している。

活動内容

地元の警察、役所からも支援、協力を得て、同大学近くの滝川小学校において、週二〜三回、小学生のグループに二人以上つき、付き添い下校を行っている。「私たちの活動している地域は、特に大きな事件はまだ起きていませんが、いつ、どこで、何が起きてもおかしくないのが現在の社会だと思っています。まずは地域全体に子どもたちを守るという考えを持ってもらえば、犯罪の少ない社会というものができると考えています。その具体的な実践として、挨拶運動を励行しています」という代表の思いが通じ、次第に住民からも声が掛かり、活動が受け入れられ、地域社会が一体となって子どもを守る体制が強化された。

中京大学学生課職員も愛知子ども守り隊の活動を立ち上

げ当初から支えている。ボランティア活動保険の加入やミーティング、活動用具の置き場所の提供等の物質的支援だけでなく、活動への問い合わせの対応窓口になる他、子どもたち、地域住民との関わり方等について指導、アドバイスを与えている。一方で、交渉ことは学生たちに一切任せるなど、学生たちの自主性を尊重している。

今後の予定

現在の活動対象は滝川小学校のみであるが、より多くの子どもたちを守ることができるよう、他地域にも活動範囲を広めたいと考えている。今後はホームページを立ち上げ（全国版ホームページ <http://skfc.que.jp/nano/>）、他大学で説明会を開催するなど、勧誘活動を行っていく予定である。メール (safe-aichi@hotmail.co.jp) にも、興味がある方からの問い合わせを待っている。四年生と一年生が中心のメンバー構成のため目下の懸念は引き継ぎだが、残ったメンバーで先輩たちの意志を引き継いでいく。また四年生は、今後社会に出ても社会に奉仕できる職業に就くことを目指している。

「自分たちの行動が子どもたちの模範となる。こちらから挨拶すれば、子どもも返してくれる。危険な行動をとれば、子どもも真似する」。教員を目指すメンバーが多いが、活動を通して、子どもの接し方についても学ぶ機会を得たと感想



愛知子ども守り隊「守るんジャー」のメンバー

を述べる。学生が主体となって実施する活動は、携わる本人にとっても得るものは大きい。このような学生が積極的に社会に役立つとする活動を支える大学の支援もなくてはならない。日本学生支援機構でも、各支部において学生のボランティア活動参加推進事業を実施しているが、今後も学生が自主的に社会貢献の意義を学べる機会を提供していきたい。